

遠隔医療等推進ワーキンググループ報告

平成22年5月11日

グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース

地球的課題検討部会

遠隔医療等推進ワーキンググループ

総論：遠隔医療の必要性、医療の課題についてのICTの活用の重要性

医療費の増大、医師不足、地域格差、市民の不安などの国民的な医療課題を解消するには、遠隔医療・遠隔相談の推進、医療データ共有システムの構築など、ICTを積極的に活用することで、医療サービスの質の向上、効率化、全体としてコスト削減を図ることが重要である。

保健や福祉との連携、異なる職種間のギャップの解消、市民参加やコミュニティとしての取り組みなど、ICTによるコミュニケーション促進効果を活用することが有効であり、また、実態の把握や事業評価なども重要である。

もとより、ICTは手段であり、ICTそのものが医療問題を解決するわけではないことに留意する必要がある。しかし、ICTは医療課題の解消に向けた大きな変革を起こしうる重要な手段である。

(1) 遠隔医療が容認される範囲の明確化

遠隔医療が十分に効果を発揮するためには、また、事業として成立するためには、「対面診療原則」の見直しが必要。

(2) 遠隔医療の継続を可能とするインセンティブ付与制度の見直し

遠隔医療の効果が大きいと認識していても、現行制度の下では、臨床現場として遠隔利用システムを継続的に維持することが困難であり、診療報酬制度などインセンティブ付与に関する制度の見直しが必要。

(3) 高度医療、予防医療、リハビリ段階の在宅医療への遠隔医療活用の推進

遠隔システムによる予防医療や健康向上への効果が大きいことは、かなりのエビデンスによって実証されているが、これまでのところ、個別的なケースにおける実証に留まっており、今後、より広範囲の対象についての包括的なエビデンス収集が必要である。

遠隔医療については、現在は、実証の段階は終わり、これからは実用システムとして普及させる段階に入っているという意見もあった。高度医療へのICTの適用については、既にさまざまな取り組みがなされ、効果が確認されている。

ICTタスクフォース地球的課題検討部会による「今後の方向性(案)」に示されたように、当面は、国民が直接そのメリットを実感しやすい、D to P(医師对患者・利用者)や在宅モニタリングなどの分野が重要になる、ないし、それらの分野の優先度が高いと思われる。

(4) 健康情報活用基盤(医療健康クラウド)等の情報インフラ整備の推進

健康・医療情報や生涯情報の蓄積、アクセス、管理を行うための情報共有システムの構築が重要であるとともに、既に整備されている情報・データ、センサ機器、通信の標準規格の活用を原則化し、整備されていない分野での更なる標準化を進めることが必要。

(5) 医療福祉資源の最適配分に向けた現場データの全数把握

医療サービスの提供側と利用側の相互信頼の欠如が重大な問題であり、その是正に向け、ERP型電子カルテや医療POS等のICTを活用して医療福祉現場で発生するデータの全数把握、収集分析を可能とすることが必要であり、また、市民参加、透明性確保、アウトカム提示などが必要である。

(6) これらの実証・検討に資するモデル事業の実施

ICTタスクフォース地球的課題検討部会の「これからの議論の方向性(案)」にあるように、遠隔医療等ICTの医療分野への活用については、まず、モデル事業によって地域課題を解決する「成功例」を作り、それを他地域に普及させるというアプローチが必要。

そのためには、社会イノベーションを促進する特区などの活用が有効であろう。ICTをはじめとしたイノベーションの活用は経済成長を伴った社会福祉の拡大を可能とする。特に、グローバルな視点と世界への貢献を重視すべき。

また、分野横断的な視点と専門的知見を駆使し政策に反映させる政策人材の育成や、地域での遠隔医療を支援する人材やservicerの育成も重要である。その際、医療費の増大を回避する観点から、ICTへの投資や遠隔医療推進のためのコスト増大と政策効果のバランスによる政策の優先順位を考慮する必要がある。